

品川支部

令和二年10月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

10月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

立教百八十三年 今年の秋季大祭は

未だ、新型コロナウイルスの災禍修まらずという中、本部を始め秋季大祭が執り行われます。永い歴史の中には、弾圧の時代、戦争の時代等、多くの困難に遭遇してきましたが今回は人が原因でなく、新たに目に見えないウイルスとの間の試練になりました。数か月前から本部月次祭には教会長が教服着用で参拝出来るようにはなりましたが、いずれにしろ常とは遠い形で行われます。これは後世の話のタネになる事は間違いのないところで、この節をどう過ごしたかが語り継がれるのだと思います。大祭は災禍の修まりに加え、その思いも込めて勤めさせて頂きたいと思います。

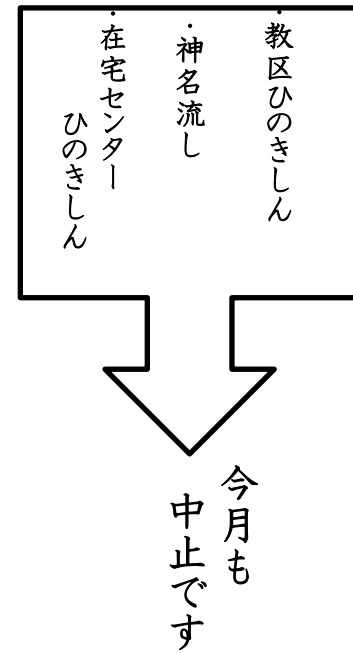


昨年の秋期大祭風景

☆支部行事のお知らせ

- ・支部幹事会
十月九日(金)午後六時〜
櫻京分教会にて
- ・支部例会十月三十日(二頁参照)
今回は新名称の日徳實と新会長の岡部会長の紹介を兼ねての例会となります

(詳細は二頁参照)



☆教務支庁からのお知らせ

- ・大亮様 第二子の次女が八月二十五日ご誕生
- ・恒例の青年会総会は今年はありません
- ・来年のおせち行事は中止が決定しています

新教会名称発足の お知らせと「紹介

先月二十六日付けで、永年 日倉分教会「会長を務められた、斎藤衛彦先生が、日本橋大教会の常在役員として就任されるのに伴い、日倉分教会」の名称をお返しし、同所に同直属の報徳系統、日徳部内に新たに「日徳實分教会」の名称を頂き新教会として発足されました



尚、新教会長の岡部先生には、若さで支部内の活気を増していただけを事を期待いたし、斎藤先生には永年の会長職をおねぎらいするとともに、引き続き教区支部の地方委員として活躍をお願いする事になります。

拠点教会	4日号	11日号	25日号 18日号と合併号
日本橋	郵送	郵送	郵送
本 桂	郵送	郵送	郵送
南 泰	郵送	郵送	郵送
三ツ木	郵送	郵送	郵送
水豊田	郵送	郵送	郵送

時報手配り十月予定

我が家のキュウリ



不自由な生活が続いておりませんが、皆さん如何お過ごしでしょうか。

毎月のおちば帰りどころか、大教会の月次祭にも半年を超えてお参拝もままならず、と言う方も数多くいらっしゃると思います。かく言う私もご多聞に漏れず、自教会で過ごしておりますが、その分時間を充分にお与え頂きましたので、なんとかこの時を有効に使えるよう考える事に致しました。まずは日頃後回しになりがちな自教会のメンテナンスです。

この際、教会建物内の手洗いを手でコックをひねらなくても、手を出せば水が出る自動栓に替えることに致しました。これは思ったより安価で、手間も意外に早く済ませることが出来ました。その後も時間に任せ電気、ガスの整備から家具の直し等行いました。

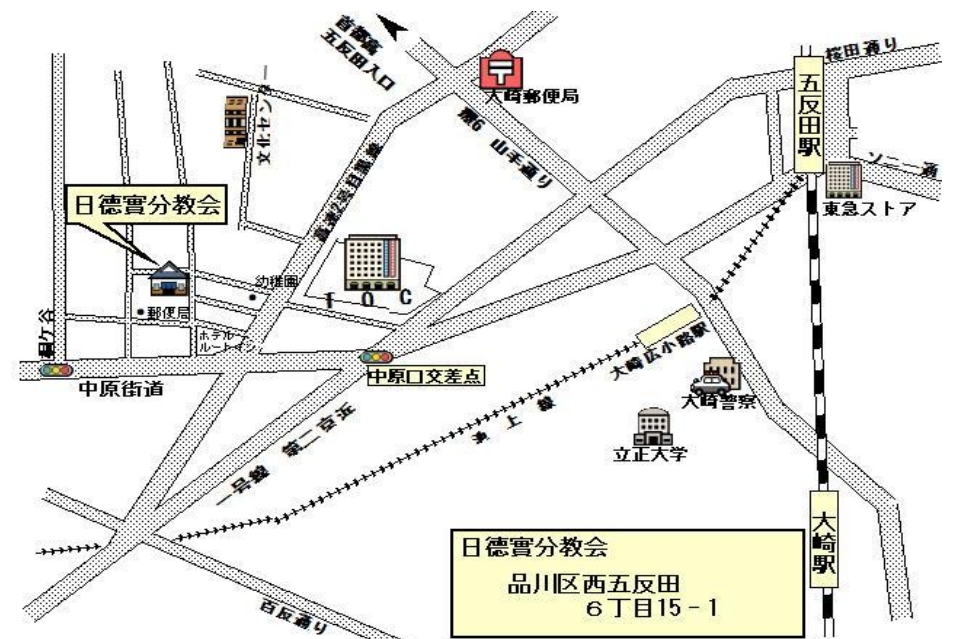
品川支部例会

令和二年十月三十日 (金) 11時開始

場所 日徳實分教会 (旧日倉分教会地) (品川区西五反田六丁目十五の一)

内容 座りづとめ よろづよ八首 十下目 東京教区、支部連絡事項 当該岡部教会長挨拶 昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



ところが四月に入っても尚コロナ禍は収まらず、次にはもう少し時間を要することでしょうと、家族と今度はベランダにトマト、キュウリ、小さい大根にんじん、枝豆と構わず何でも育ててみることに致しました。これなら多少時間が長引いても面白いし、何より収穫しても食べるという楽しみが有ります。一つは、中澤先生が書かれていました、今はやりの水耕栽培で栄養分を与え、外のもものはプランターに土をマニュアル通りに「撒いたる種は皆生える」と、どちらでも可愛い芽が出て順調に育つて背丈も大きく、小さな実もついてきました、しばらくはその結果に楽しく満足してはいました。特に水耕栽培の方は背丈がニメートルを超え、なおかつ大きくなるうとして本当に楽しみにしておりました。ところが、大きな実がつくトマトの種は、量はそれなりに成るんですがミニトマトが大きくなった程度にしかならないのです。キュウリと言えば初めての数は立派で(これは味もとても良かった)

マニュアルには、食べきれないほどのキュウリがなるとあったんですが、花がついて受粉させてもなかなか思ったような数の収穫に至らないのです。女房の実家の方で農家をしてる人に伺って貰うと、今年は初めのうちは雨ばかりで、今年は次は四十度近い高温になりこちらにもトマトは駄目だったとのこと、プロでもそうなら仕方ないとも思いました。ここで始めて成る程な、って思えたわけですけど、それは何かという「撒いたる種は皆生える」と聞かされている事は、自分自身の中で撒いた種で、これは本当に良きにしる、悪きにしる、種をまけばその通りの実がなるという事なんだと言うことです。ところが、このようにトマトやキュウリを育てることに限らず、種が良い種が必要な事、「たんせい」が必要なことは間違いありませんが、火・水・風のご守護とその種にとって心地よい場所があると、言うことが更に必要な事だと言うことでした。

いつも人助けを心がけ、それで「にをい」が掛かればと思っておりますが、なかなか「にをい」は掛からず、心が折れる事が多いのです。そこにはやはりこちらの都合と言う物が大きく働いてしまっている気が致します。特にお助けは、生きた人が相手ですので、その方が「たんのう」出来る場所を作っておける事、もう少しの気遣いが必要なんだと言うことに繋がりました。今、我が家のキュウリは気温も下がってきたこともありありますが、少し日陰等を工夫し、時期外れではありますがありますが、ここにきて多くの花を咲かせ、小さな赤ちゃんキュウリが育っています。

豊英分教会長

栗原 董

